

# ピンクリボンNEWS

2017年度  
冬号  
Vol.6 No.4

発行人 認定NPO法人 J.POSH

編集 ピンクリボンNEWS 編集委員会

発行所 J.POSH事務局〒538-0043 大阪市鶴見区今津南2丁目6番3号 TEL.06-6962-5071

**J.POSH**  
日本乳がんピンクリボン運動®

## TOPICS

### 我々J.POSHが関心を持っていること



認定NPO法人J.POSH  
(日本乳がんピンクリボン運動)

副理事長 平田 享

我々が関心を持っていること、それは、高校生に対する『乳がん啓発活動』です。

2002年以来、乳がんの知識や検診の重要性の啓発活動のために、ポスターやリーフレットを作成して無料で配布してきました。その中で最近強く感じていますのは、高校生に対する『乳がん啓発活動』です。各地において小学生、中学生に対して啓発活動を行っている方を耳にします。それに比べて、高校生に対しては、少ないように思います。乳がんに対する正確な情報を伝えることは、成長期に当たる小・中学生に比べて高校生にとって、より身近に感じることで感じます。

我々J.POSHに対して毎年、数校の高校より講演依頼があります。ある高校の女子高生が講演後のアンケートに「今まで乳がんのことは関係ないと思っていました。遠い先のことだと思っていましたが、この講演を聞いて、今からでも考えないといけないのだと感じました。母も40代で乳がんになる可能性が高いので、帰ったら自己検診のパンフレットを見せようと思います。」このようなことを

書いていました。40代後半が乳がん罹患率のピークであることを考えますとまさに、高校生を持つ親がその年代になります。そこで感じるのは、高校生を対象に啓発することによって、親世代にも啓発ができるということです。

国の指針によりますと、40歳以上の方に2年に1度の検診を進めています。しかし、乳がん全体の5～10%が遺伝性乳がんと言われています。この遺伝性乳がんは、多くが40歳までに発症します。また、遺伝性乳がんではありませんが小林麻央さんは、34歳で亡くなりました。乳がん患者の半数以上が自分で乳がんを発見しているという現実からしても自分の体に関心を持つ習慣づけが必要です。このようなことを考えますと、若い時から乳がんに関心を持ち、「自己検診」の重要性を認識することが非常に大切であると思います。

このようなことから、高校生に対する『乳がん啓発活動』が普及することは、大いに効果の上がることです。しかし、我々J.POSHの力だけでは、難しいことです。行政、医療従事者、ピンクリボン団体、患者会、より多くの方々の力の結集によって、高校生に対する『乳がん啓発活動』が広まることを願います。

#### 追伸

我々J.POSHは、最近、子宮頸がんの啓発団体との交流が増えてきています。『子宮頸がん』は、早期に発見すれば、治療しやすいがんですが、乳がんより若くして罹患のピークを迎えます。子宮頸がんの患者は、20代後半から増加し40代以降は概ね横ばいで推移し、若くして子宮を摘出しなければならない状況になったり、死に至る方も年間約3000人を数えています。これらのことから高校生に対して『乳がん啓発活動』と同様に『子宮頸がん啓発活動』により、正確な情報を伝える必要を感じます。

## 日本製紙クレインズ×ピンクリボンイベント



日本製紙株式会社

<http://www.nipponpapergroup.com>

日本製紙株式会社(東京都千代田区、馬城文雄社長)は、J.POSHが行っているピンクリボン運動に賛同し、2016年度からオフィシャルサポーターとしてご協力を頂いています。同社は「乳がん検診を勧める社内PRを行ってきたが、広く社会に啓発する活動に参加する」方針を決め、第1号として同年9月から新ブランド「ピンクリボンPPC」の販売を開始しました。PPCは普通紙複写機用のコピー用紙のことで、同社の主力商品の1つ。用紙のパッケージにJ.POSHのロゴマークをデザインし「ピンクリボン運動の認知向上に貢献するとともに、新ブランドのコピー用紙の売り上げの一部をJ.POSHに寄付する」事を決めて頂いています。



入場者に啓発ティッシュを手渡す道東乳がん患者会の皆さん(日本製紙アイスアリーナで)

同社は釧路工場がある北海道釧路市に、アイスホッケー部「日本製紙クレインズ」を置いています。同部の創部は1949年で歴史は古く、当初から釧路に根付いており地元では熱狂的なファンが多い。そんな事情を背景に2017年9月30日、10月1日の両日 同市内にある「日本製紙アイスアリーナ」で行われたアジアリーグ戦＝日本製紙クレインズ対安養ハルラ(韓国)でピン



試合の休憩時に乳がんについて啓発トーク。左はさとう晴美さん、右は十亀晋事務局長

クリボンイベントを行いました。

当日の試合観戦は、「ピンクを身に付けた女性」は入場料無料。入場口の受付では道東乳がん患者会(藤原紀子会長)の皆さんが入場者一人ひとりにJ.POSHの啓発ティッシュの配布や、啓発グッズを販売するなど協力をしておられました。試合前と休憩時間を利用し、J.POSHの十亀晋事務局長が、FMくしろのパーソナリティーさとう晴美さんの質問に答える形で乳がんについての質疑応答を場内放送で行い、観客に乳がん啓発活動を行いました。

日本製紙クレインズの佐々木博明アイスホッケー部部長は「試合に絡めてのピンクリボン啓発活動は初めてですが、多くの皆さんに乳がんの情報を知ってもらうために今後も定期的に行って行きたい」と話されていました。



アイスアリーナの入口ホールでJ.POSHのロゴマーク入りコピー用紙を展示し入場者にアピール。



# 肌への刺激の少ないインナーのモニター募集

明日をもっと、**こ**こちよく

## GUNZE

### グンゼ株式会社

<http://www.gunze.co.jp>

オフィシャルサポーターのグンゼ株式会社さんは、社会貢献の一環として自社製品の寄付を行われています。今年度はJ.POSHにグンゼラブアース倶楽部からの支援商品として肌への刺激を減らしたインナー「メディキュア」を60着(カラーはシュガーブラウンのみとなります。)いただきました。この機会にご希望の皆様(応募多数の場合は抽

選)でご提供します。つきましては、必要とされている皆様の声を製品に反映することでより良いものにして頂くように考えモニター形式として下記要領で実施することとしました。この機会に応募いただければと思います。※ピンクリボンニュースに申し込み用紙を同封しております。

グンゼラブアース倶楽部：グンゼラブアース倶楽部は、グンゼ創立110周年記念の社会貢献事業として2006年に発足しました。会員から募った寄付金と会社のマッチングシステムによるNPO団体等への寄付や、協働事業を通じて社会に貢献しています。

■モニター品：メディキュア(色はシュガーブラウンのみとなります。)

■サイズ：M 胸囲 79～87cm

L 胸囲 86～94cm

LL 胸囲 93～101cm

■募集期間：2018年1月10日～2018年2月28日

■提供者決定：～2018年3月9日

※応募者多数の場合はサイズ別に抽選となります。

※提供者発表はメディキュアの発送とさせていただきます。

■発送：2018年3月10日から順次



※掲載の写真とモニター商品はシュガーブラウンとなります

**ハサミで簡単カット!**

※前開き部分は切らないようにご注意ください。

例えば脇下など、創があたりやすい部分を、お好みの形状にカットできます。

**胸パッド**

初めての方でも使いやすいようにパッドを付属。取り外しができるので、自分でアレンジも可能です。

**スナップボタン**

大きめのスナップボタンだから、留め外しが簡単。プラスチック製で軽く目立ちにくい。5か所のスナップでしっかり留まり、ズレを防ぎます。

**きりっぱなし生地**

術後に気になりやすい脇やパッド挿入部は「完全無縫製®」。縫い目をなくすことで、刺激を軽減しました。

**パッド挿入部(肌側)**

肌あたりが気になるパッド挿入部は完全無縫製®。安全で、かつ洗濯しても剥がれにくい特殊な接着剤で生地を接着。

**リッチな綿65%混!**

天然素材の綿をたっぷり使用し、ふんわりソフトな肌ざわり。よく伸びるソフトなストレッチ素材を使用。

**幅広ストラップ**

肌にくい込みにくいきりっぱなし仕様で、敏感な肌への刺激を軽減しました。胸もとはお花のようなかわいいうカットのデザインです。

## ピ ンクリボン in SAPPORO

北海道札幌市でピンクリボン活動を展開している「ピンクリボン in SAPPORO」（代表=大村東生 医療法人東札幌病院プレストケアセンター長）。事務局長を務める木原くみこさんは15年前、乳がんに罹患したのをきっかけに札幌市でピンクリボン活動を始められました。地元のFM放送局である「三角山放送局」の運営会社・株式会社らむれ



右が木原くみこさん、左は十亀晋J.POSH事務局長(三角山放送局スタジオ)

す」の取締役でもあり、放送を通じた乳がん啓発にも取り組んでいらっしゃいます。同放送局では、2007年から乳がんに関わる啓発番組を放送中(毎週木曜日午前11:00~11:20)。患者さん本人や家族、啓発に関わっている企業や個人など様々な人々に出演していただき、乳がんに対する思いや取り組みを発信しています。

ピンクリボン in SAPPOROは、啓発イベント(毎夏、札幌市内でダンスや演奏、玉入れ大会など家族で参加できるステージイベントを開催し、夜はさっぽろテレビ塔をピンク色にライトアップ)、ワーキングサバイバーズフォーラム(毎年2月、北海道庁と共催し、がんと仕事について考える)、ピンクリボンファミリーがん教室(幅広い世代にがんの知識共有を狙い、公開講座を開催)、ピンクリボン病院コンサート(入院患者向けに病院内で開催)、ピンクリボン出前講座(札幌市内の女子高生、大学・短大の女子大生を対象に乳がん専門医による講義)などを行い、啓発活動に力を入れています。

## 進 藤まきこさん(個人サポーター) 南極ビンソンマティフ登頂記

【事務局から】 2016年2月に乳がんの手術を受けた個人サポーターの進藤まきこさんが、ご主人の大阪出張に伴い北海道から大阪の事務局に訪問いただきました。手術後間もないがリハビリテーションが専門医であるご主人のサポートを受け、キリマンジャロに登頂され2016年末に南極最高峰に登頂されました。そのお話が興味深く写真も美しかったので多くの方にご覧頂ければと掲載させて頂きました。

南米チリ・プタレナスの町で準備を整え、世界から集まってきた人達とチャーター機へ乗り込んだ。天井は配線や配管がむき出し、機内はオイル臭が漂いエンジン音が鳴り響く、空調も不十分で厚いダウンジャケットがいる。

4時間程の飛行で12月28日、南極大陸に降り立ち、雪上車に乗りユニオングレーシャーキャンプに入った。翌日29日、セスナ機でベースキャンプ地(標高2140m)に移動。キャンプに着くと、自分達のダイニングテントと休むテントを設営する。大晦日に蕎麦を食べ、元旦に私の誕生日を祝ってもら



と午後からは移動が始まった。ザックを背負いソリを引く、目指すローキャンプは9キロ先の2781m。初めてのソリ引きは最初楽しく次第に辛い。腕が





軽く痺れ始め、途中で腕が浮腫んできた。これはまずい、リンパ浮腫の再発が頭をよぎる。リーダーに相談しソリの荷物を少し軽くし、8時間移動してキャンプに着くと、テント張り作業。日が沈まない南極、1月2日は高所順応を兼ねた荷揚げ、食材や燃料を途中まで運ぶ。高所靴とアイゼンで片足1.8キロ、動きは鈍る。荷上げしたらキャンプ地



に着き、倒れこむ様に寝袋に入った。山に入ると曜日がわからなくなるが、毎日飲むホルモン剤に書いた日付が日めくりカレンダーになっていた。3日は7時間以上かかりハイキャンプ(3780m)に移動。作業をしていた私たちにロシア隊がお湯を作ってくれた。雪からお湯を作るのは容易ではない。高所に体を慣らすにもたくさんの水分を取る必要があり、テント生活は夜間のトイレで数回起きることになる。よく眠ることはできないが、何度も目覚めるのはホルモン療法での経験があり地上と変わら

ない。普段辛い体温調節障害も、氷点下の世界では逆に救われた。

翌日のアタック日は標高差約1100m、往復14キロの道のり。広大な雪原をロープで10m間隔につなぎ、2班に分かれ歩いていた。真っ青な空と純白な山々、目指す頂が見えなくて歩いても進んでいないようだった。休んでも疲れが取れず、苦しく、動けなくなるかもしれないと何度も頭をよぎった。後からやってきた隊長が「登りたい気持はあるか?」と聞く。我に返り、睨み返すように深く頷いた。飲み物と食べ物をポケットに詰めザックを置いた。空身で雪面をゆっくり進み、岩綾を抜けると尾根に出た。その先には目指す山頂、滑落しないように慎重に歩き、1月4日南極大陸最高峰ビンソンマティフに立つことができた。

また一つの頂を踏むことができた、身体と心を鍛えながら次の山に挑みたい。





# ピンクリボン月間活動紹介

各地の啓発活動



H29年12月2日  
サッカー・サンフレッチェのホームのエディオンスタジアムで行われた  
第33回ちびっこマラソン大会



プレストケア・ピンクリボンキャンペーンin広島実行委員会  
10月18日〜25日ゆめタウン廿日市店にて



山形ピンクリボン実行委員山形虹会さん  
9月31日と10月1日の健康フェアにて



富士通アメリカンフットボール部フロンティアーズさん 10月19日、25日ピンクのソックスで勝利





NPO 法人男女共同参画ネット尼崎さんの  
ピンクリボンギャラリー展 9月19日～10月10日開催

戸田中央医科グループさん  
10月5日(木)に、戸田公園駅と戸田駅にて



マンマの会パセリさんのピンクリボンツリーと啓発ティッシュ配布の様子



平成29年5月14日(日)、けやきウォーク前橋  
モール中央入口 西出入口において第3回目となる  
群馬県がん患者団体連絡協議会 母の日キャンペーンを開催



## ピンクリボンエンジェル LINE スタンプが完成

ピンクリボンエンジェルのLINEスタンプ40種類の販売を開始しました。価格は240円です。これらの売上はピンクリボン基金として活用させていただきます。

▶スタンプのご購入はこちらから  
右のQRコードをスマートフォンでスキャンして下さい。



### 事務局 からの お知らせ

「家族で湯ったりキャンペーン」の抽選が終わりました。

2017年度も「家族で湯ったりキャンペーン」の抽選を行い、489通のお申込みから11施設へ26名の方をご招待することになりました。毎年の企画にご参加いただいています。温泉ネットワークの皆様へ紙面を借りてお礼申し上げます。

### ピンクリボンNEWSあとがき

私(T・I)が前立腺がん手術を受けたのが2014年3月のこと。間もなく丸4年が経とうとしています。がんの部位別の「5年相対生存率」(がんと診断された患者が5年後に生存している確率=国立がん研究センターがん情報サービス『がん登録・統計』)で、前立腺は97.7%と最も高く、次いで乳房が92.7%と、こちらも高い数字です。当該部位患者にとっては勇気付けられる数字であることは事実です。一方、低い部位を見ると、すい臓9.9%、肝臓38.5%、肺39.1%

…などとなっていて、がん患者全体では65.2%。率が部位によってこんなにも差があるのかと驚きました。率が低い部位の患者にとって、気になる数字であろうことは察することができます。乳がんのステージ別の5年生存率を見ると、ステージ1が100%、同2が95.7%、同3が81.6%、同4が35.2%となっていて、「早期発見」がいかに大切かが裏付けられています。ともあれ「全ての部位が100%」となる日がくるのを願わずにはいられません。(T・I)